



『置塩地区』をたずねて

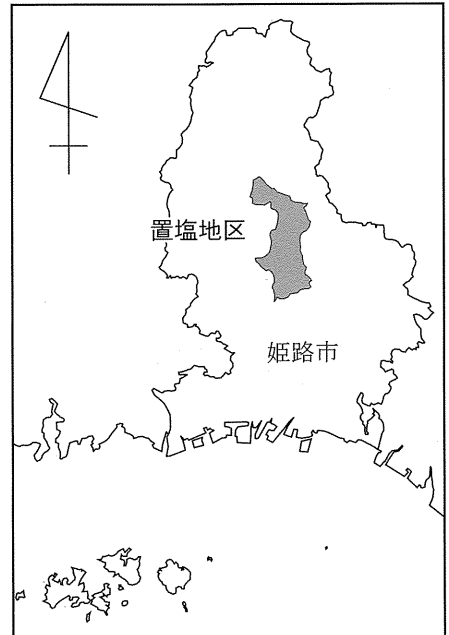
「置塩」の沿革

置塩は姫路市の中心市街地から北へ約10km、夢前川の中流域に位置する。周囲は播但山地南部の山々に囲まれ、夢前川沿いに狭長な谷底平野が形成されている。

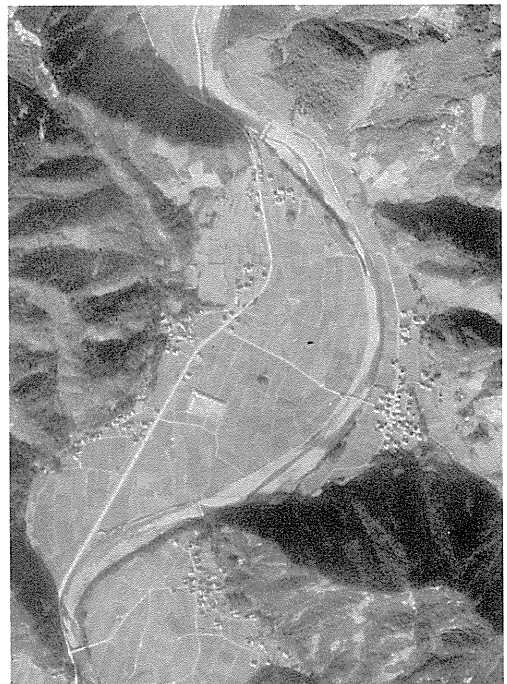
「置塩」は史料の中では「小塩」、「おしほ」とも書かれ、古くは「おし(じ)お」と発音されていた。置塩に関する史料上の所見は、「太平記」に暦応4年(1341)に塩冶判官が京都から出雲へ下向する途中に、小塩山麓で幕府軍と交戦したとする記述がみえ、この頃には山麓部が交通路として利用されていたことが判る。置塩庄としては、寛正6年(1465)、足利義政が置塩庄を相国寺慶雲院に寄進したことが初出であり、長享～明応年間(1487～1501)頃にはしばしば建仁寺頭塔の龍徳寺領置塩庄として登場する(「蔭涼軒日録」)。16世紀に入ると、播磨・備前・美作の守護職であった赤松氏の守護所が置塩におかれ、16世紀後半には置塩城がその居城として整備された。やがて、織田信長の武将として播磨に侵攻してきた羽柴秀吉が国内を平定する。天正8～9年(1580～81)秀吉が播磨の新しい支配拠点として姫路城の改修を進めていくと、置塩城はかつての役割を失い廃城となった。天正13年、赤松氏は阿波住吉城に移封となった。

江戸時代に入ると置塩を含む夢前川流域は姫路藩領となった。慶長9年(1604)作成の「播磨国絵図」に玉田・山富・小塩町・中村・松坂(又坂か)・いと田・こちの庄・高長の村名がみえる。17世紀中に作成された「正保郷帳」によると、置塩村としては山富村・下村・下村枝郷新畑村・町村・中村・又坂村・糸田村の7村がみえる。このほかに古知之庄村・高長村、玉田村がある。古知之庄村からは宝永6年(1709)、塩田村と杉之内村が分村・独立した。これらの村は始め前之庄組に属したが、寛延2年(1749)の姫路藩領一揆で前之庄組大庄屋北八兵衛宅が打毀され退役し、宝暦5年(1755)から置塩町村の衣笠弥惣左衛門が大庄屋を勤め町村組に属した。

明治時代に入ると地方行政の合理化を図るため政府が町村合併を推進し、明治9年に中村と町村が合併して宮置村、また新畑村と下村が合併して置本村になった。明治22年、町村制の施行に伴い、糸田村・玉田村・山富村・宮置村・置本村・又坂村・古知之庄村・塩田村・杉之内村・高長村の10村が合併して置塩村となり、昭和30年、置塩村・鹿谷村・菅野村の3村が合併して夢前町が成立した。平成18年3月27日に家島町・香寺町・安富町とともに姫路市に合併し現在に至る。



置塩地区の位置



昭和23年 米軍撮影空中写真(宮置付近)

この空中写真は、国土地理院長の承認を得て、米軍撮影の空中写真を複製したものである。(承認番号 平19近複、第69号)

置塩地区の文化財

①北野神社 玉田集落の北端に所在する。社殿は元禄13年(1700)に再建され、昭和47年に解体修理されたもの。明治期以前には玉田社や大明神社や十所神社などと呼ばれていた。境内に弁慶の母と伝わる墓石がある。玉田にあった玉田井堰・書写井堰・郷内井堰は夢前川から取水して各方面へ導水していたことから、戦前までは農繁期になると南部の村々から玉田に酒や素麺等を持って挨拶に訪れたという。

②氷室池 山富集落の東方の氷室谷にある。天保13年~弘化元年(1842~44)の姫路藩主酒井忠学の代に、玉田村と安室郷各村に灌漑用水を供給するために造られた溜め池。

③書写吹地蔵 県道姫路大河内線から西寄りの山麓にある。自然石を彫りくぼめ中肉彫りした地蔵菩薩半伽像。かつて夢前川に流出していたものを村人が祀ったとされ「堀り上げ地蔵」とも呼ばれる。「文明四年(1472)十二月二十七日」の紀年銘がある。

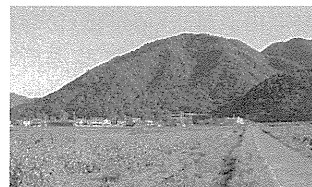
④法界寺 天台宗。円教寺の末寺。現在の建物は昭和46年に再建されたもの。付近に寺内・本防(坊)の小子名、善坊・寺前の通称地名が残る。「古跡便覧」に往時町村に在りと記される。

⑤町村(旧小塩町) 置塩城が廃城となった後、城下町であった小塩町も寂れて村となったことから町村と呼ばれるようになったと伝わる。町村には横大道筋・武家小路・ショウベイ屋敷・アゲ屋敷・人切谷等のかつての名残をとどめる通称地名や、茶碗屋・籠屋・鏡屋・呉服屋・鼈甲屋・酒屋・茶屋・桶屋等の町屋の屋号が残る。文化6年(1809)、姫路藩主酒井忠道が創設した備荒貯蓄の固寧倉の制度は、町村組大庄屋の衣笠弥惣左衛門の献言による。



置塩地区の文化財地図(S=1:50,000)

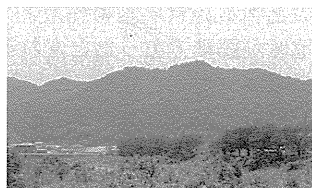
⑥置塩城跡 国指定史跡。赤松氏の居城。夢前川の東岸、標高370mの城山の山頂部に位置する。曲輪・通路・石垣・土塁などの城郭遺構が良く残り、これらが東西約600m、南北約400mに亘って広がる播磨最大級の山城跡である。平成13～17年度に行われた発掘調査の結果、庭園を伴う大型の礎石建物や天守的な性格をもつ磚列建物などが発見され、守護城郭として格式を意図した設えを備えていたことが明らかになった。また発掘調査を通じて出土した生活遺物は、土師器皿、中国製磁器碗・皿、備前焼甕・播鉢、瓦質土器火鉢など1万点以上に達する。通説では文明元年(1469)に赤松政則が築城したと伝わるが、この城が居城化し大規模に改修されるのは16世紀中頃以降で、城主でいえば赤松政村(晴政)・義祐・則房の代に相当する。天正8年(1580)羽柴秀吉による城破令が出され廃城となった。



⑥置塩城跡(南から)



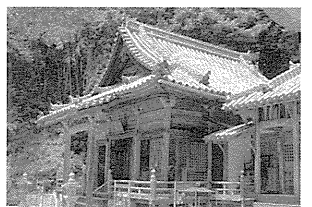
⑥置塩城跡(大石垣)



⑦番城山城跡遠景(北から)

⑦番城山城跡 町村の南方に位置する山城跡。置塩城の南方を守る支城で、番兵が配備されたことが城名の由来と伝わる。

⑧性海寺 天台宗。霊亀年間(715～17)に徳道上人が開基したと伝わる。室町期には守護赤松氏や英賀の三木氏から厚い庇護を受けたとされ、本尊十一面千手観音菩薩像の胎内には赤松政則の持仏が納められているという。なお本堂には元禄16年(1703)の紀年銘をもつ「黄石公張良図」の絵馬が掲げられる。



⑧性海寺

⑨櫃蔵神社 置塩城が廃城となった時、本丸跡にあった守護神の3柱のうち、1柱をここに移動して櫃蔵神社といい、他の1柱を香寺町恒屋に移して櫃倉神社といい、残り1柱を糸田の柏森に移して柏森神社といったと伝わる。現本殿は昭和3年(1928)に改築されたもの。境内に白髭神社、大將軍社、城山稻荷社の小社がある。なお、社殿背面の山腹に「ござる岩」と呼ばれる巨岩があり、神無月に当社の神も出雲の神集いに出席し、帰途に柏森神社に15日間滞在して当社に帰るのが習わしで、帰りの際、先ずこの岩に御坐にしたという伝承がある。かつては「かむもどりの祭」という祭典があった。



⑨櫃蔵神社

⑩岡前遺跡 「岡前」は「御構」が転訛したとされる。発掘調査は行われていないが、室町時代には赤松氏の守護所関連施設が存在した可能性が高い。

⑪松安寺跡墓石群 松安寺は赤松義祐が赤松氏の菩提寺として創建したもので、堂宇は昭和50年頃に倒壊した。境内に赤松晴政・同夫人・赤松義祐の供養塔とされる五輪塔と地藏菩薩立像があり、これらは市の文化財に指定されている。



⑪松安寺跡墓石群

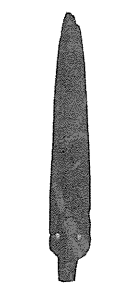
⑫鞍掛山(中村)城跡 松安寺跡の背後に聳える鞍掛山の山頂部に位置する。置塩城の西方を守る支城で、曲輪・土塁・通路等の遺構が残る。城主は赤松正満と伝わる。山腹には銅を掘り出したと伝わる廃坑と井戸があり、タタラ谷、番ヶ谷と呼ばれる地名が残る。

⑬柏森神社 置塩城の搦手にあたるといわれ、付近に馬場・白拍子・茶屋・酒屋などの通称地名が残る。現社殿は大正12年(1923)に改築されたものである。戦前まで大樹の茂る神々しい佇まいがみられた。

⑭浄安寺 臨濟宗。又坂集落の南端に位置する。境内に「永正十五(1518)年」銘の宝篋印塔があり、置塩城2代目城主の赤松義村の供養塔と伝わる。



⑭浄安寺宝篋印塔

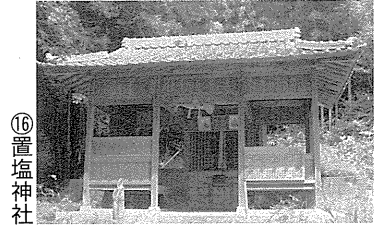


⑮梅谷遺跡出土石剣

⑮梅谷遺跡石剣出土地 昭和38年に火葬場工事中に石剣が不時発見された。発見された石剣は、粘板岩製の銅剣形石剣で弥生時代中期後半のものとする。祭器として使用されたのであろう。

■塩田温泉 『播磨鑑』に「潮のさす田」があり塩田と称していた所に、元文年間(1736～40)頃に温泉が湧き出て、宿屋ができ湯治湯になったと記される。16.6度の冷泉で泉質は含炭酸重曹弱食塩、含土類炭酸鉄泉で、胃腸病・神経痛・皮膚病に特効があるとされる。

⑯置塩神社 寛延2年(1749)の姫路藩領一揆の指導者となり処刑された滑の甚兵衛、塩田の利兵衛、又坂の与次右衛門を祀る顕彰社。もとは安永10年(1781)村人により供養塔が建立されており、昭和29年に置塩神社が創建された。毎年9月に義拳を偲ぶまつりが行われている。なお、境内地造成中に古墳時代終末期の組合せ箱式石棺墓が出土している。



⑯置塩神社

■巨智庄 『播磨国風土記』に渡来系氏族の巨智賀那が帰化し巨智里を開拓したと記される。天平勝宝8年(756)聖武天皇の死に際して使用された櫃覆の町方帯(現在正倉院に保存)には「播磨国飾磨郡巨智郷戸主巨智田主調緋染狭絶壹匹」とあることから、この工芸品は巨智里で織られ調物として納められたものと判る。承平5年(935)に編集された『和名抄』所載の「巨智郷」は、夢前川流域の今の置塩・鹿谷両地区が郷域であったとされる。中世には巨智(知)庄となり、平安時代末期には上西門院領であったが、貞応3年(1224)以降に宣陽門院に移譲された。嘉禎4年(1238)、坂上明胤が父明定から地頭職を譲られている。坂上氏の地頭職がいつ頃まで続いたかは定かでないが、室町時代には赤松氏の支配するところとなった。文明13年(1481)には赤松氏家臣の上月満吉の知行地となっていた。

⑰法恩寺石造無縫塔 県指定文化財。法恩寺は置塩神社南麓にある浄土宗の寺院で、建物は昭和40年の水害で倒壊した。境内にある石造無縫塔は法雲比丘の墓で高さ97cm、前面に「開山塔」、裏面に「永和四年(1378)」と刻まれている。本尊の薬師如来像(県指定文化財)には嘉禎3年(1237)の胎内銘があり、京都建仁寺の僧覚心が宋から持ち帰ったと記されている。現在は兵庫県立歴史博物館に寄託されている。



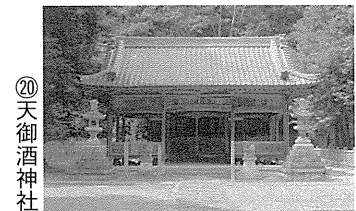
⑰法恩寺石造無縫塔

⑱上岡遺跡 昭和52年に農業基盤整備事業に伴う発掘調査で弥生時代後期の円形竪穴住居跡1棟、奈良時代の竪穴住居跡3棟・掘立柱建物跡3棟が発見された。また縄文時代早期の石鏃が出土しており、夢前町内で最古とされる。

⑲古知之庄石仏 高さ1.8mの自然石に、蓮台の上に錫杖をもった地藏菩薩立像が刻まれている。蓮台の下に「応永廿八年(1421)辛丑4月口日口口」とかすかに読める紀年銘がある。

⑲古知之庄石仏

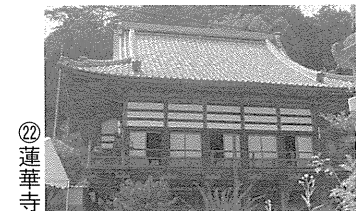
⑳天御酒神社 古知之庄、杉之内、塩田、荒神山地区の氏神。寛文2年(1662)の創建と伝えられるが、現在の社殿は明治30年に改築されたもの。境内に愛宕の小社、宮川の南に末社の若王子神社がある。



⑳天御酒神社

㉑賀那塚跡(宮山古墳群) 古来、御山と呼ばれる丘陵上に位置し、巨智賀那を葬った塚と伝わる。『播磨国風土記』によると巨智賀那は百済から帰化した大和山村己知部の一族で、巨智里を開いたとされる。現在封土は削平されているが、かつては土饅頭状に3基並んでいた。

㉒蓮華寺 天台宗。杉之内集落の西端、愛宕山麓に東面して建つ。本堂は舞台造。本堂に安置される十一面観音像は天長年間(824～33)に本寺を創建したと伝わる僧円仁が彫刻したものという。梵鐘は宝暦4年(1754)に铸造され、太平洋戦争の際に供出されたが、終戦のため返還されたもの。



㉒蓮華寺

㉓光瑞寺 浄土真宗本願寺派。甲斐国の武田信玄の武将高坂弾正昌信の三男四郎兵衛昌房(入道浄心)が亀山本徳寺よりこの地に移り草庵を結んだことに始まるとされる。その子浄念が元和8年(1622)光瑞寺と称した。現在の本堂は寛政10年(1798)に改築されたもの。



㉓光瑞寺

■編集 山田 修 (前夢前町文化財審議委員長)